

中医望診



高橋楊子
上海中医薬大学附属日本校

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

望診（望而知之謂之神）

- 望診は視覚を駆使して患者の状態を観て診察する方法
- 望→眺望する
良い治療者は、患者が戸を開け部屋に入ったときから望診を始める

【望診のポイント】

望神→生命力と精神状態を把握し、病気の進退予後を推測する

望色(顔色・髪の毛・皮膚・爪・排泄物など)→寒熱虚実・臓腑・気血津液などの状態を把握する

望形態→虚実・陰陽などを把握する

望舌(別項)

一. 望神

【神の概念】

広義の神→生命活動(臓腑の精気血の盛衰)の現れ
狭義の神→精神的な活動(精神・意識・思惟などの脳の働き)
故神者、水穀の精気也 『靈枢』 生命力→精・気・神
血気者、人之神 『素問』
得神者昌、失神者亡 『素問』

【望神の内容】

1) 体形、2) 顔の色と艶、3) 眼神、4) 表情・言葉・動作、5) 呼吸状態

【神の四つの状態】

1) 得神、2) 少神(神気不足)、3) 失神、4) 仮神。(神乱)

	1. 得神	2. 少神	3. 失(無) 神
体・四肢筋肉	筋肉が衰えず	痩せて筋肉が少ない	筋肉が無くなる
顔の色と艶	血色がよく、つやがある	血色は少なく、つやが欠ける	血色はなくつやがまったくない
眼神	目に輝きと元気さがある	輝きと元気さが欠ける	輝きがなくて死んでいるような感じ、酷くなると、瞳孔反応は無い
表情・言葉・動作	精神良好・反応機敏・動作言葉正常	健忘・反応や動作緩慢・声が小さい	無表情・反応遅鈍・意識不明・声が低く弱々しい
呼吸状態	穏やかな正常	息切れ	呼吸困難
病状と予後	正常か軽病(予後良好)	軽・中度病(予後良好)	重度の病(予後悪い)
臨床意義	精気充実	精気欠損・臓腑虚弱	精気衰退・臓腑衰弱

5. 神乱→精神意識の異常な病気
癲 (うつ病などの精神疾患)
癇 (癲癇など)
狂 (狂躁・躁鬱病の精神疾患)
痴 (認知欠落・認知症など)

4. 仮神
重病の失神状態から突如に病状が好転のような変化が現れる→臨終の前兆。例えば戴陽症・除中
精気衰竭・陰不斂陽・虚陽浮越
陰陽衰竭・陰陽離決

無神



二. 望顔色(面色)

顔色と艶の両方から気血・臓腑・寒熱・虚実を観察する(とくに艶が予後と関係する)
 十二経脈、三百六十五絡、其血氣皆上於面而走空(孔)竅 『靈樞』

【五色と五臓の関係】

以五色命臓、青為肝、赤為心、白為肺、黄為脾、黒為腎『靈樞』

青(木)→肝、赤(火)→心、黄(土)→脾、白(金)→肺、黒(水)→腎

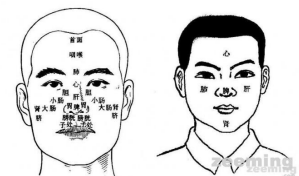
【部位と五臓の関係】

左頬→肝、右頬→肺、額→心、頤→腎、鼻→脾 『素問・刺熱篇』

人中→子處(卵巣子宮・精巣睾丸・膀胱)

【五色診の臨床意義】

青黒為痛、黄赤為熱、白為寒『靈樞・五色篇』



望 顔 色	五行	五臓	臨床意義
	木・青	肝	<u>寒証・痛証・瘀血・驚風(肝病)</u> 蒼白(青白い) →陰寒内盛(外感風寒・陽虚内寒・寒痛) 青紫(顔色・唇色) →寒凝瘀血 青灰(顔色・唇色) →心陽不足 小児高熱とともに眉間・鼻翼・口唇周りの青灰→驚風前兆 急に青ざめた →肝鬱気滞
	火・赤	心	<u>熱証(心病)</u> 満面通紅(顔全体が真っ赤) →実熱証(外感熱邪・臓腑陽盛) 頬だけに薄く赤くなる →虚熱証(陰虚内熱・陽亢) 久病重病に顔白が突如ベニで化粧したような赤みが現われる「戴陽証」 →陰陽衰竭、または真寒假熱の虚陽浮越
	土・黄	脾	<u>虚証・湿証・(脾病)</u> 痿黄 →脾気虚・気血両虚 黄胖 →脾虚内湿 黄疸 (陽黄→(肝胆・脾胃)湿熱 陰黄→寒湿・脾虚内湿)
	金・白	肺	<u>虚証・寒証・脱血・奪気・(肺病)</u> 晄白 →陽虚内寒・陽虚水停 淡白 →血虚・気血両虚・脱血(大出血、慢性出血) 蒼白 →陰寒内盛
	水・黒	腎	<u>腎虚・寒証・痛証・水飲・瘀血</u> やや黒い黧黒 →腎虚・血行不暢 顔や耳殻が焦黒乾燥→腎精衰弱・陰液虧損 目の下に黒い隈 →腎虚・寒湿下注(帯下病)・慢性睡眠不足 どす黒+肌膚甲錯 →瘀血

三. 望形態

1. 体型

- 1) 骨格はしっかりし筋肉もしっかり付く →気血・臓腑の充実
- 2) 痩せ型、骨格は細く筋肉も弱い →気血虚弱・臓腑機能の衰弱
- 3) 肥満体、皮膚は白っぽくて汗出し浮腫みやすい、体が重だるい→脾虚湿停 **肥人多気虚**
- 4) 肥満体、メタボリックシンドローム、多食多飲、皮膚脂性→痰湿 **肥人多痰**
- 5) 痩せ型、筋肉は少ない、皮膚は萎黄、カサカサする→陰血不足 **瘦人多陰虚**
- 6) 痩せて筋肉が少ないが力がある、頬が赤っぽくなり、多食→陰虚内熱 **瘦人多火**

2. 姿勢・動作

陽主動、陰主静

- 1) 動作が多く、座るときでも立つときでも歩く時でも胸を張って前を見る、寝るとき、顔を部屋の外側に向けたたり足を出したりして布団を掛けたがらない →陽証
- 2) 動作は少ない、じっと座ったままあまり動かない。座る時でも歩く時でも、顔は下に向けたがり、寝る時顔を部屋の壁側に向けたがり布団をしっかりとかける →陰証

四. 局部望診

1. 望頭

頭為諸陽之会、精明之府 腦為髓海
望頭、主に腎氣腎精の盛衰を察す

- 小児の頭の異常な大き、+智能低下 →腎精不足・発育異常
- 赤ちゃんの泉門遅閉→腎精不足・発育不良
- 頭が揺れる+高熱→風熱・肝火化風
- 年寄りの頭が無意識に揺れる →気血両虚・血虚生風

2. 望髪

髪は腎の華 血の余り→望髪は腎精・気血の充実度などが把握できる
頭髪の色・艶・量・太さ・脱毛有無から観察する

髪 の ト ラ ブ ル	頭髪の望診	随伴症状	臨床意義
	細い、切れやすい、艶がない、抜け毛、白髪	瘦型、顔白か瘠黄、食欲細い、生理少ない、耳鳴り、腰膝痠軟、淡齒痕舌、細弱脈	血虚・気血不足 腎精不足
	+ テッペンに毛髪が抜けやすい	腰膝痠軟、耳鳴り、夜間尿、慢性睡眠不足、淡舌か紅舌、少苔無苔、尺弱脈	腎精不足 腎陰虚 腎陽虚
	べとべとして抜けやすい 突然円形脱毛	皮膚が脂性、ニキビ、吹き出物が多い、膩苔、滑脈 憂鬱、イライラ、不眠、多夢、睡眠不足、月経不順、弦脈	湿熱・痰湿 肝鬱血虚生風
	若年性白髪	煩熱・紅舌、数脈	腎虚・血熱

3. 望目

目は肝の外竅であり、各臓腑とも関係する

五臓六腑之精気、皆上注于目而為之精。精之巢為眼、
骨之精為瞳子、筋之精為黒眼、血之精為絡、其巢氣
之精為白眼、肌肉之精為約束 『靈樞・大惑論』

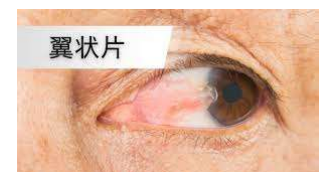


五輪学説

五輪	五臓
水輪(瞳子)	腎(主骨)
風輪(黒眼=角膜)	肝(主筋)
血輪(目頭目尻の血絡)	心(主血脈)
氣輪(白目=強膜)	肺(主気)
肉輪(筋肉=眼瞼眼胞)	脾(主肌肉)

◆【目のトラブル】

1. 眼瞼粘膜が白い → 気血両虚・血虚
2. 白目が黄色い → 黄疸
3. 白目が赤い → 風熱・肺熱・肝熱
4. 眼胞浮腫(とくに下眼瞼) → 水腫
5. 眼瞼が紅腫熱痛・痒い → 風熱・肝胆湿熱・脾胃湿熱
6. 目頭・目尻の紅く痒い → 心熱・湿熱
7. 目の周りがくぼむ → 脱水・腎精衰弱
8. (子供)目が半開きで寝る → 脾胃虚弱・気血不足
9. 眼瞼がピクピク動く → 脾虚肝旺
10. 努肉攀睛(翼状片—目頭や目尻あたりの毛細血管などの組織が充血し増殖して翼状のような膜が白目に広げていく)
→ 心肺熱盛・風熱・湿熱・気血鬱滞
11. 眼瞼下垂 → 脾気虚・清陽不昇
12. 両目が上向く、凝視(両目上視) → 肝風内動
13. 口眼歪斜 → 中風・風痰阻絡・中風後遺症
黄色腫・角膜輪 → 脂質異常症



4. 望耳

耳は腎の外竅であり、手足の少陽胆経・三焦経・厥陰肝経などの経絡が巡り合って「**宗脈の集るところ**」であり、腎、肝胆、全身と関係する

耳の色の異常	病因病機
白	寒
焦黒・乾枯	腎精衰弱
紅腫 * 耳下腺腫脹	肝胆湿熱
耳の裏に赤い絡が浮き出て + 耳の付け根が冷たくなる	麻疹の前兆
耳から膿液が出る	膿耳→肝胆湿熱
乾燥の耳垢が溜まる 真珠腫	聾耳・聾聾→ 痰濁・瘀血



5. 望鼻

鼻が肺の外竅であり、陽明胃経が走行する部位で、主に肺・脾胃と関係する

鼻の五色診『金匱要略』	病因病機
鼻の先が青	腹痛—脾虚寒
黄	湿熱
白	失血
赤(酒皸鼻)	肺脾胃熱盛・湿熱
黒	水飲

1. 鼻水が薄い、白く水漬の鼻水 → 外感風寒・水飲内停
2. 黄色粘っこい鼻水 → 外感風熱・痰湿熱
3. 慢性の鼻詰まり、粘稠な鼻水、匂いがする(蓄膿症)
→ 風熱・胆経蘊熱
4. 急性の鼻詰まり+カゼや花粉症の症状 → 外感風寒・風熱
5. 慢性の鼻詰まり、粘稠鼻水、鼻水がよく喉に流れ込む(蓄膿症・後鼻漏)
→ 風熱・胆経蘊熱

諸病水液、澄徹清冷、皆属于寒

6. 望唇・歯・咽喉

唇は脾胃の華であり、脾胃気血と関係する。

咽喉は肺脾(胃)の入り口、少陰腎経が走行する部位で、肺・脾(胃)・腎と関係する
歯は、骨の余りで腎と関係する。また、足陽明胃経は下歯肉に、手陽明大腸経は上
歯肉に交叉に通る

◆【唇・咽喉の色の異常】

白 → 虚
青紫 → 瘀血
深紅・赤 → 熱（咽がやや紅い、乾痛→虚熱）
紅腫疼痛 → 熱盛・湿熱

◆【形の異常】

口角がただれる → 脾胃蘊熱
唇がひび割れる → 外感燥邪・熱盛傷津
流涎が多い → 脾虚湿盛・胃熱上蒸・虫積・中風
新生児顔色が急に青くなり口がぎゅっと閉じて痙攣 → 脾虚肝風

7. 望皮膚

乾燥肌、皮膚がカサカサ → 血虚
脂性肌、皮膚がベタつき → 痰湿
皮膚乾燥、カサカサして痒い → 血虚失養・血虚生風
紅斑疹、紅腫痒痛、化膿 → 熱証・風熱・心火
紅腫痒痛＋ジュクジュク、化膿 → 湿熱

8. 望排泄物

排泄物(鼻水・涙・痰涎・嘔吐物・尿・便・帯下など)の色・質(匂い)により寒・熱を見分ける

諸病水液、澄徹清冷、皆属于寒『素問』

	寒証	熱証
分泌物	白い・希薄	黄い・粘稠
尿	小便清長	小便短赤
便	軟便・下痢	便乾便秘
匂い	無臭か腥臭	穢臭

9. 望小兒絡脈

- 小児（主に赤ちゃん）の人差し指の橈骨側面の脈絡状態（**静脈の色・長さ・太さ・深さ**）を観察する診断法
- 施術者は、子供の人差し指の末端を握み、親指で小児の指先から付け根に向けて適度な力で2～3回さしてから指紋の状態を観察する
- ★正常絡脈は薄いピンク色で、風関の内側にうっすら見える、太くも細くも無い。



小児指紋示意图

- 【色】 色淡 → 虚証
 色紅 → 風寒表証
 色深紫紅 → 熱証
 色黒紫 → 瘀血・重病、
 色青 → 驚風

- 【長さ】 風関より気関に向かって長くなるのは → 病進、逆に、短くなるのは → 病退
 風関まで → 病が浅く軽い、
 気関を突き抜ける → 病気が深く重い、
 命関や爪に到達する → 危篤

- 【絡脈の浮沈】 浮（軽くさしてすぐ見える）→ 表証、沈（数回さしてから見える）→ 裏証

- 【太さ】 絡脈が太い → 熱証・実証、絡脈が細い → 寒証・虚証

10. 望爪

爪は肝の華、筋の余り、また陰陽経絡の交接のところなので、全身気血の充実や流れの状態などを映すことができる。

健常者の爪 → 色はピンクで艶があり表面平滑で割れない。

◆【色の異常】

- 爪色が白くて艶がなくて割れやすい → 血虚・気血両虚
 爪色が深紅 → 実熱・血熱
 爪色が黄い → 黄疸・湿熱
 爪色が黒っぽい・紫っぽい → 瘀血

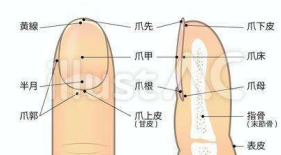
- ◆【形の異常】 扁平爪・反甲（スプーンネイル）→ 肝血不足・脾肺気虚
 凹凸の線・溝・珠状の変形 → 各種の異常

◆【爪と臓腑の関係】



	主な関連の臓腑・部位
親指	頭・頸部、または体全体
人差し指	胸部・背部・心肺・上焦
中指	腹部・腰部・脾胃肝胆・中焦
薬指	臍以下の下焦・腎・膀胱・腸・二陰
小指	腎・二陰・下肢

【爪の構造】



© 日本医事堂

【症例検討】 子供の髪遅**五遅(発育が悪い)→立遅、行遅、髪遅、歯遅、語遅****患者** 5歳の女の双子**望診** やや痩せ型、顔色痿黄無華、髪の毛はとても少ない、頭頂部だけ薄く細く茶色っぽい髪の毛がある。生まれてから一度も切ったことはない。**問診** 食欲が少ない、活発によく動く。ロタウイルスの感染で入院したことはあった。産まれたときの体重 姉は2350g、妹は1980g**舌診** 淡紅舌やや淡、薄白苔

母親は33歳で、髪の毛は薄い(父親普通)。28歳自然妊娠、妊娠7カ月後半、めまい、立ちくらみ、切迫流産の出血があり病院に行き、貧血と言われて、出産まで入院して点滴をずっと受けていた。37週目に自然出産

・ 症状の分析

- ・ 弁証
- ・ 治則
- ・ おすすめ処方